



～夢の素材をつくる 花と絵と音楽と水のある学校～

国立二小だより

平成27年2月27日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

絆を確かめ育てる活動

6年生の活動から・・気仙沼市立大谷小学校との交流・地域交流作品展

校長 小林 理人

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から今年で4年が経過します。

そして、震災から4年が経過した今も、気仙沼市立大谷小学校と隣接する大谷中学校の校庭には186戸の仮設住宅があり、大谷小学校に通う児童も含め、被災された住民の方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。

先月6日（金）、大谷小学校を訪問しました。大谷小学校の校長先生、副校長先生をはじめ、PTA 会長、関係の先生方からのお話を伺い、持参した6年生が作成した図工の作品と本校 PTA からお預かりした義援金をお渡ししました。



大谷小学校を訪問し、最も印象的だったことは、玄関で迎えてくれた6年生の子供たちをはじめ、廊下ですれ違う子供たちがしっかりと静止し、目を見て元気よくあいさつをしてくれる姿です。

そのことを熊谷校長先生にお伝えすると、「子供たちも震災のことや生活の不便さを口に出すことはありませんが、お家の人たちの苦労はちゃんと分かっている自分たちができることを精一杯しているのだと思います。」と話してくださいました。そして、「子供たちの声や楽器の音など、学校でどんなに大きな音を出しても一切苦情がありません。むしろ子供たちの声や学校から聞こえる音を励みにしてくれています。」と学校の子供たちが地域の皆さんの活力の源になっている現状を教えてくださいました。

そして、6年生の教室前の廊下には本校の6年生が送ったメッセージが掲示され、当時から大谷小学校にお勤めの先生は、「震災後、国立からボランティアに来てくださった先生方が津波の後片付けをしてくださったことは忘れることができません。」と私たちの訪問を心から歓迎してくださいました。

今年度も、大谷小学校との絆は6年生の作品交流という活動でつながりました。本校の6年生が学校生活での思い出や学校の自慢の場所を描きました。大谷小学校の子供たちは自分の未来に対する想いを描きました。そして、その作品交流を通して、自分たちの学校や生活を見直し、そのよさや自分たちの想いを再認識できたのです。

地域の未来を担う子供たちをすくすくと育てたいという地域の大人の願い、そんな大人に感謝をし、自分たちも力になりたいと願う子供たちの願い、それぞれの願いを叶えることを目指して大谷小学校との交流活動をつなげて行きます。また、その他、卒業に向けた6年生の取組を裏面で紹介しています。

なお、明窓浄机館において3月7日（土）まで、大谷小学校との交流活動「地域交流作品展」が開催されています。ぜひ、ご覧になってください。